

各関係機関の長様

滋賀県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報(特殊報第2号)について

このことについて、以下のとおり発表したので送付します。

平成23年度病虫害発生予察特殊報第2号

平成23年(2011年)10月26日

滋賀県

1. 病虫害名: ミナミアオカメムシ *Nezara viridula* (Linnaeus)

2. 作物名 水稲・ダイズ・野菜類・果樹類

3. 発生経過

大津市に設置している予察灯で、ミナミアオカメムシと思われるカメムシが誘殺された。誘殺されたのは9月6日に雄1頭と9月8日に雌1頭であった。宮崎大学の宮野和朗博士に同定を依頼したところ、本県では未確認のミナミアオカメムシであることが判明した。

本種は本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島に分布するカメムシで、平成14年以降11府県で特殊報が発表されている。近畿地方では兵庫県と京都府から発表されている。

4. 形態および生態

成虫の体長は12~16mm。アオクサカメムシによく似ているが、体がより縦長なこと、前胸背側角の突出が弱いこと、触角第3~5節の前半部が褐色(アオクサカメムシは黒色)であること、腹部背面(翅の下の腹板)が緑色(アオクサカメムシは基部2~4節が黒~黒褐色)であることなどで識別できる。成虫の体色は、アオクサカメムシと同様に多くの色彩変異がある。

年3~4世代を経て成虫で越冬する。水稲収穫後のひこばえ(再生穂)などでも繁殖し、その後枯れ株の間や積みわらの中、常緑樹の樹冠部などで越冬する。なお、県内での越冬は未確認である。

越冬には最寒月の平均気温が5℃以上必要だが、近年の冬期温暖化によって分布域が北上している。

5. 被害の特徴

広食性で、水稲のほか、ダイズ、野菜類、果樹類など32科145種の植物を吸汁する。

水稲では主に穂を吸汁し斑点米を発生させる。他の斑点米カメムシ類に比べ体が大きく

吸汁量が多いため、斑点米カメムシ類の中で最も斑点米を作る能力が高いとされ、少数でも被害が大きくなりやすい。九州や四国では、本種を対象とした注意報が発表されている。

6. 防除対策

水稲、大豆、果樹等での被害が懸念されるので、本種の発生を認めたほ場では、必要に応じてカメムシ類に登録のある農薬を散布し防除する。

また、水稲については、本種の繁殖地となるひこばえ等をなくすため、収穫後早めに耕起し、刈り株や稲わらを埋没する。



右側の翅をはずしたミナミアオカメムシ腹部背面（翅の下の腹板）が緑色



水稲に寄生するミナミアオカメムシ（京都府病虫害防除所提供）

滋賀県病虫害防除所

<http://www.pref.shiga.jp/g/byogaichu/>

滋賀県近江八幡市安土町大中 516

TEL:0748-46-4926・6160

FAX:0748-46-5559

Email:GC70@pref.shiga.lg.jp